

イカナゴ情報 No.1 (2019年5月)



道総研

令和元年5月31日

道総研稚内水産試験場調査研究部(担当:堀本) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類¹の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

海洋観測: 漁場(水深40~80m)の底層水温は北部で前年より低く、南部で高め

宗谷海峡東方海域において5月28~30日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を行いました(図1)。観測ラインの水温鉛直断面図をみると、ラインAではオッタートロールの主漁場となるIS02より沖側(水深40m以深)の海域は水温5°C以下の水塊が占めていました。ラインB、Cではかけまわしの主漁場となるIS11やIS14より沖側(水深50m以深)では水温8°C以下の水塊が漁場全体を占めていました(図2)。底層水温の水平分布をみると、2019年度は沿岸側の宗谷暖流の勢力が最近4年の中では強いものの、沖側の冷水帯も沿岸側まで張り出しており、沿岸と沖合で水温差が大きくなっていました(図3)。2018年度と比べると、イカナゴ漁場(水深40~80m)の底層水温は、オッタートロールの主漁場に近い北側では1°C程度低く、かけまわしの主漁場に近い南側は1°C程度高い傾向がみられました。

魚探観測: 水深30~80mの海域にイカナゴ類とみられる反応を多数確認

海洋観測と同じラインで実施した魚探観測では、ラインAではIS01~IS02付近(水深30~70m)の海底付近に魚群反応が多数観察され、水中カメラとオッタートロールによる漁獲状況から、いずれもイカナゴ類と推定されました(図4)。ラインBのIS10~IS11付近(水深50~80m)の中層~海底付近にもイカナゴ類とみられる魚群を複数確認しました。ラインCでは目立った魚群は確認できませんでした。

漁獲物組成: 体長23~25cmが中心

ラインAのIS02付近(水深70m付近)で、オッタートロールによりイカナゴ類を採集しました。標本の体長は23~25cmの個体が多く、2018年度調査で優占した年級群が引き続き魚群の主体と考えられます。(図5)。一方で、2018年度調査で採集された体長17~20cmの小型個体は、2019年度調査では確認できませんでした。

¹ イカナゴ類にはイカナゴ、オオイカナゴ、キタイカナゴの3種が含まれる(Orr *et al.*, 2015)

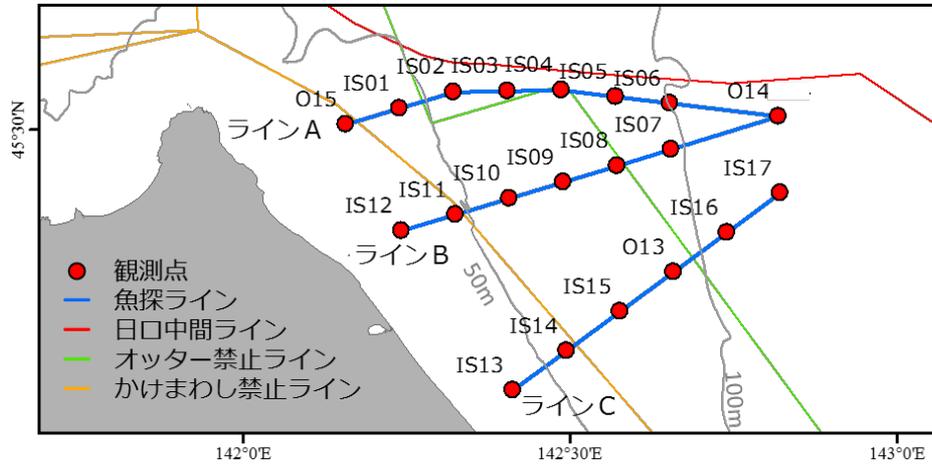


図1. 海洋観測・魚探観測ラインの位置。

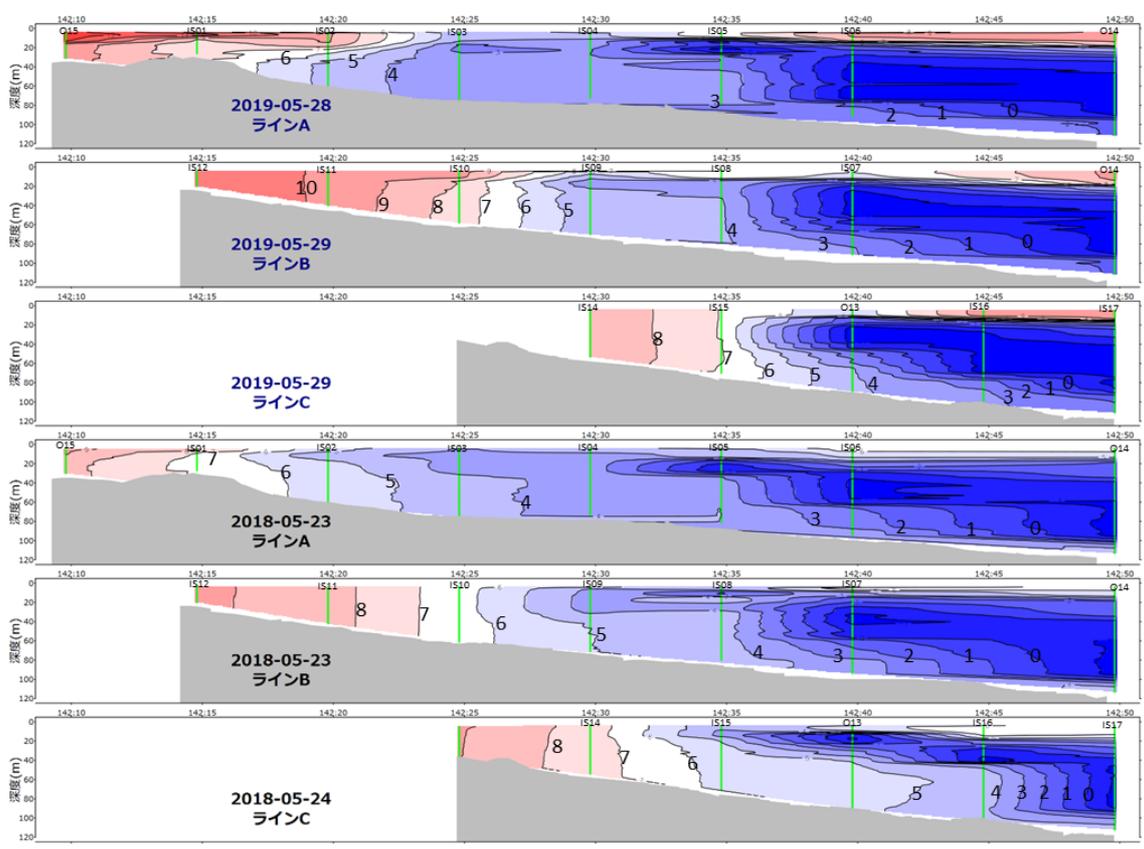


図2. 2018・19年の各調査ラインの水溫鉛直分布。2019年のIS13(ラインC)は欠測。

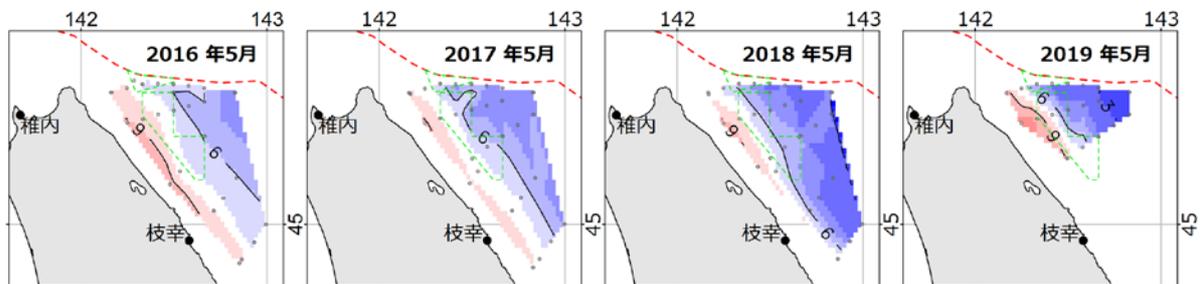


図3. 2016~19年の調査海域における底層水溫の水平分布。図中赤点線は日口中間ライン，緑点線枠内は沖底漁業におけるイカナゴ類対象の主操業海域。

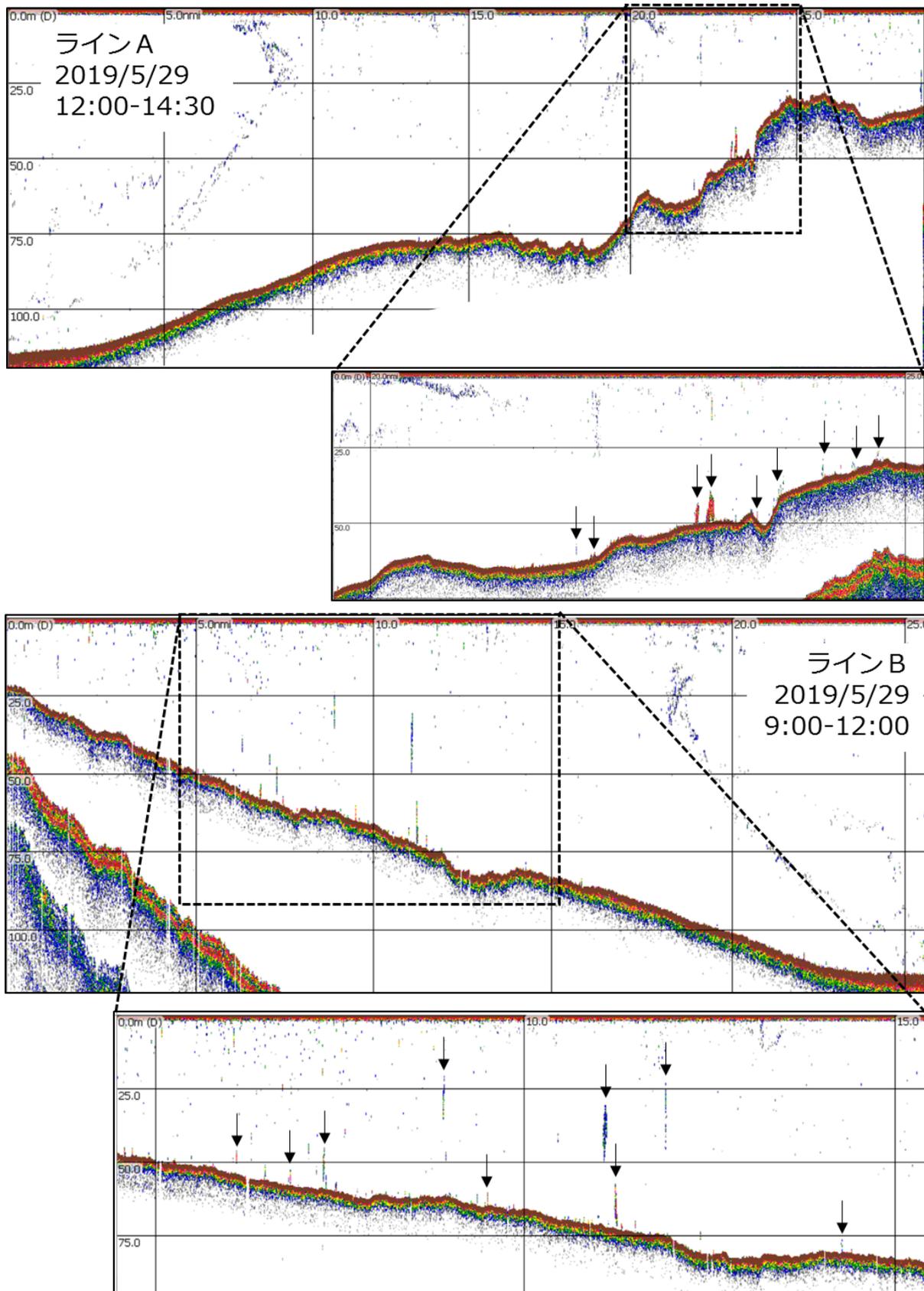


図4. 観測ラインAおよびBにおける魚探反応. 各下図は各上図中黒枠内の拡大図. 拡大図中のイカナゴ類とみられる魚群反応を黒矢印で示した。

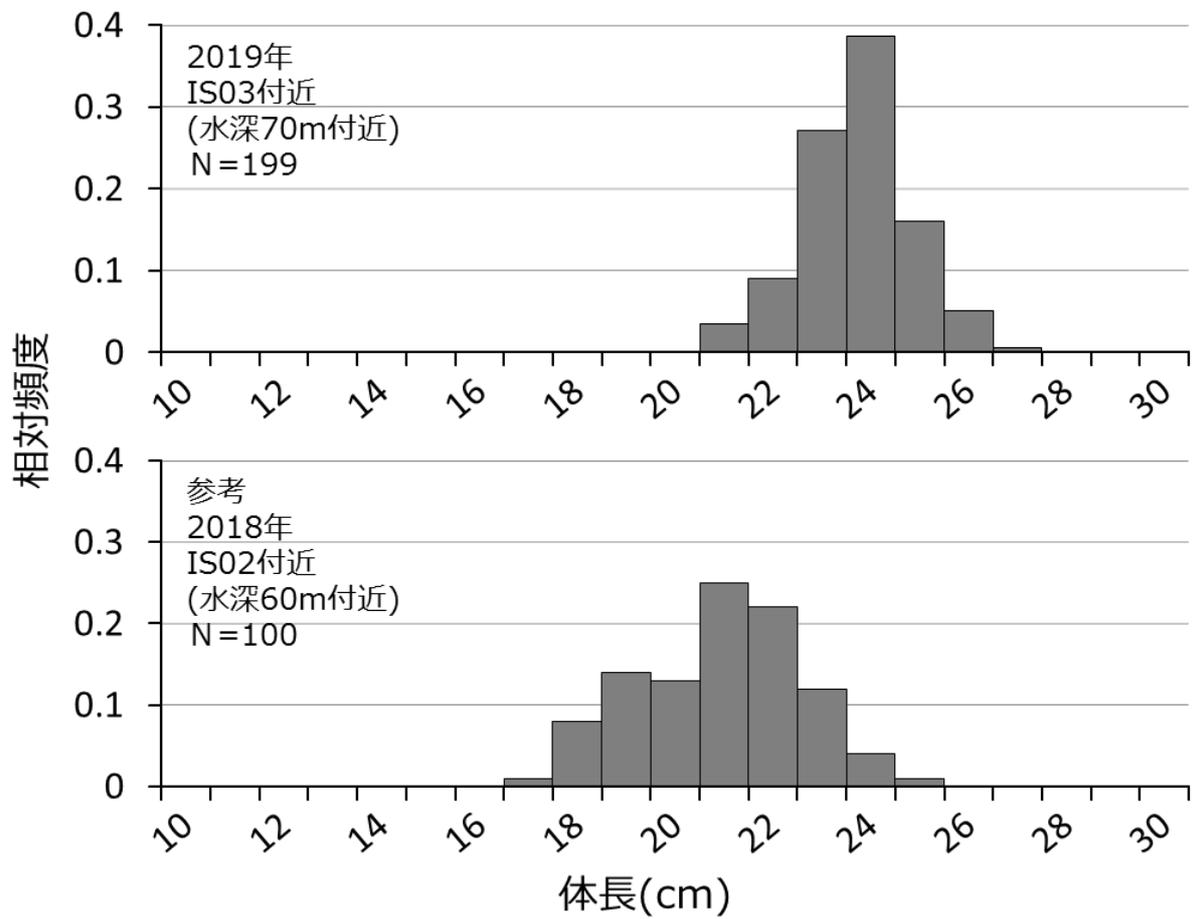


図5. オッタートロールで採集したイカナゴ類の体長組成.